

2026年7月2日

韓国・6月輸出入額はともに過去最高を更新(Asia Weekly)

～半導体がけん引役となるも、幅広い分野で輸出拡大を促す動き～

経済調査部 主席エコノミスト 西濱 徹

(Tel: 050-5474-7495)

(経済指標の振り返り)

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
6/30(火)	(韓国)5月鉱工業生産(前年比)	▲0.9%	+4.0%	+1.5%
	(中国)6月製造業 PMI	50.3	50.1	50.0
	6月非製造業 PMI	50.2	--	50.1
7/1(水)	(韓国)6月輸出(前年比)	+70.9%	+61.0%	+53.4%
	6月輸入(前年比)	+30.1%	+26.3%	+20.7%
	(中国)6月 RatingDog 製造業 PMI	51.7	51.6	51.8
	(インドネシア)6月消費者物価(前年比)	+3.34%	+3.20%	+3.08%
	5月輸出(前年比)	▲5.73%	+5.20%	+21.98%
	5月輸入(前年比)	+22.16%	+18.26%	+22.49%
7/2(木)	(韓国)6月消費者物価(前年比)	+3.2%	+3.2%	+3.1%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[韓国]～半導体のみならず幅広い分野で輸出が拡大し、6月の輸出額は過去最高を更新～

30日に発表された5月の鉱工業生産は前年同月比▲0.9%となり、前月(同+1.5%)から3ヵ月ぶりに前年を下回った。前月比も▲3.0%と前月(同▲0.7%)から2ヵ月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向に転じるなど、頭打ちの動きを強めている。業種別では、建設業やサービス業で生産拡大の動きがみられるものの、鉱業や製造業における生産減少が全体の重しとなった。製造業では、自動車など輸送用機械関連や衣料品など縫製品関連の生産は拡大したものの、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連のほか、電気機械関連、金属関連、化学関連など幅広い分野で生産が減少したことが足かせとなった。

1日に発表された6月の輸出額は前年同月比+70.9%となり、前月(同+53.4%)から伸びが加速した。当局が試算した季節調整値に基づく前月比も8ヵ月連続で拡大しており、単月ベースの輸出額は過去最高を更新した。財別では、主力の輸出財である記憶装置の輸出額が前年比で4.5倍、コンピュータも同4倍となったほか、半導体が同3倍、半導体チップパッケージが同2.7倍となるなど、世界的なAI(人工知能)関連投資の拡大が追い風となっている様子が見えてくる。半導体関連以外でも、中東情勢の緊迫化を受けた原油高を反映して石油製品関連が前年比1.5倍となった

ほか、携帯電話など移動通信機器も同 1.5 倍、化粧品が同 1.4 倍となるなど、幅広い分野で拡大する動きが確認されている。国・地域別では、中東向けに下押し圧力がかったものの、最大の輸出相手である中国向けのほか、米国向けが旺盛な動きをみせるとともに、欧州向けや日本向け、ASEAN などアジア新興国向けの堅調さが輸出全体を押し上げた。一方、輸入額は前年同月比 +30.1% となり、前月（同 +20.7%）から伸びが加速した。前月比も 7 ヶ月連続で拡大したと試算されるとともに、単月ベースの輸入額も過去最高を更新した。輸出の旺盛さを反映して素材・部材などの輸入が活発化していることに加え、原油をはじめとする商品市況の上昇によって輸入額が押し上げられたほか、調達先の多様化や調達の積極化も影響し、幅広く輸入が拡大する動きがみられる。その結果、貿易収支は +361.49 億ドルと前月（+270.36 億ドル）から黒字幅が拡大し、単月ベースで過去最高となった。

2 日に発表された 6 月の消費者物価は前年同月比 +3.2% となり、前月（同 +3.1%）から加速し、2023 年 12 月以来の高い伸びとなった。また、4 ヶ月連続で中銀目標（2%）を上回る伸びで推移している。前月比は +0.06% と前月（同 +0.46%）から上昇ペースが鈍化しており、原油価格の上昇一服を反映してエネルギー価格が落ち着きを取り戻す一方、食料品価格は総じて上昇基調を強めるなど、生活必需品の物価動向にはばらつきが生じている。食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比 +2.5% と前月（同 +2.5%）と同じ伸びとなったものの、総合インフレ率と同様に中銀目標を上回る推移が続いている。前月比は +0.01% と前月（同 +0.51%）から上昇ペースが鈍化しており、エネルギー価格の上昇一服を受けて輸送コストに下押し圧力が加かるとともに、幅広くサービス物価が下振れする動きがみられる。しかし、原材料価格の上昇を財価格へ転嫁する動きに加え、金融市場におけるウォン安に伴う輸入物価の上昇も重なり、財価格には上昇圧力が強まる動きが確認されている。

図 1 KR 鉱工業生産の推移

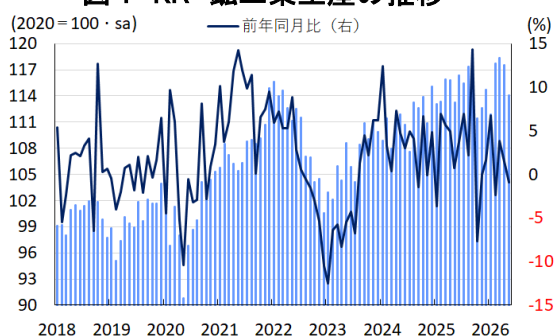


図 2 KR 貿易動向の推移

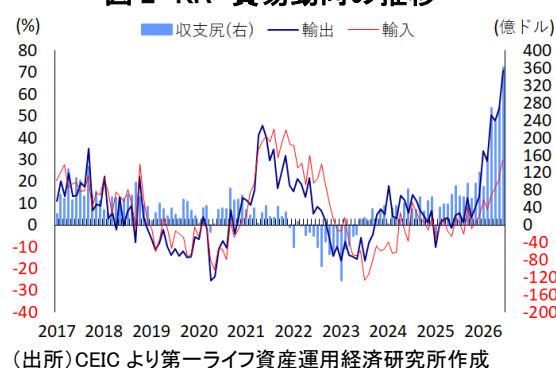
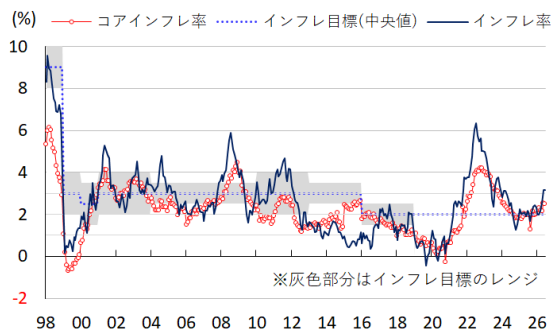


図3 KR インフレ率の推移

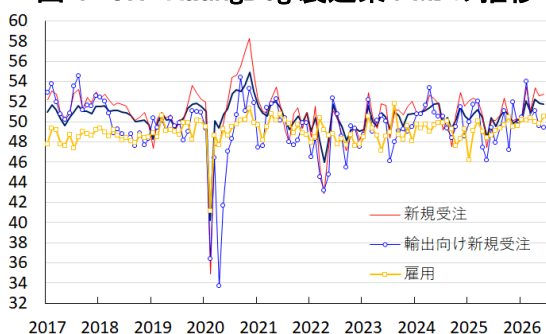


(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

[中国]～民間製造業 PMI は 50 超で推移、外需に不透明感が残る一方、内需の底堅さを示唆する動きも～

1日にS&Pグローバルが発表した6月のRatingDog製造業PMI（購買担当者景況感）は51.7と、好不況の分かれ目となる50を上回る推移が続いたものの、前月（51.8）から小幅に低下した。生産動向を示す「生産（52.8）」は引き続き50を大きく上回ったものの、前月比▲0.6pt低下しており、生産拡大の動きに一服感が出ている。先行きの生産を左右する「新規受注（52.7）」は同+0.2pt上昇した一方、「輸出向け新規受注（49.4）」は同▲0.2pt低下して2ヵ月連続で50を下回るなど、外需を中心に不透明感が残る。中東情勢の緊迫化を受けた原油高が一服したことを背景に、「調達価格（52.4）」は前月比▲3.4pt低下して5ヵ月ぶりの低水準となった。一方、「出荷価格（52.2）」は同+0.2pt上昇しており、過去の原材料価格上昇分を製品価格に転嫁する動きがうかがえる。また、「原材料在庫（50.7）」は同▲1.0pt低下した一方、内需向けを中心とする受注の堅調さを反映して「購入量（52.4）」は同+0.1pt上昇しており、原材料需要の底堅さが示唆される。「完成品在庫（50.2）」は同▲0.4pt低下しており、緩やかに在庫調整が進む動きもみられる。なお、生産拡大の動きには一服感がみられるものの、「雇用（50.5）」は前月比+0.7pt上昇して3ヵ月ぶりに50を上回るなど、雇用にも拡大の動きが出ている。

図4 CN RatingDog 製造業 PMI の推移



(出所)S&P グローバルより第一ライフ資産運用経済研究所作成

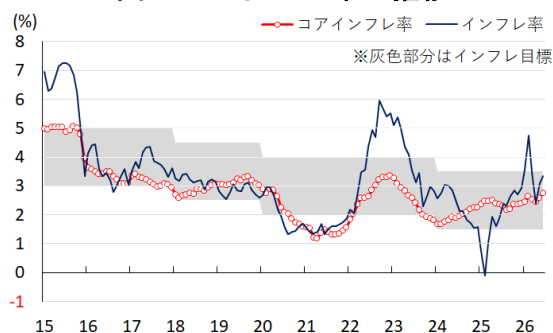
[インドネシア]～生活必需品を中心に幅広く物価上昇が進み、インフレ率は着実に加速している～

1日に発表された6月の消費者物価は前年同月比+3.34%となり、前月（同+3.08%）から加速して3ヵ月ぶりの高い伸びとなった。一方、中銀目標（2.5±1%）のレンジ内での推移は続いている。前月比も+0.44%と前月（同+0.28%）から上昇ペースが加速しており、中東情勢の緊迫化を

受けた原油高を反映してエネルギー価格が上昇基調を強めているほか、生鮮品をはじめとする食料品価格も上昇するなど、生活必需品を中心とする物価上昇が続いている。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+2.76%となり、前月（同+2.59%）から加速して2023年4月以来の高い伸びとなったものの、インフレ率とともに中銀目標のレンジ内で推移している。前月比は+0.23%と前月（同+0.22%）からわずかに上昇ペースが加速しており、原材料価格の上昇による価格転嫁の動きに加え、エネルギー価格の上昇に伴う輸送コストの上昇、金融市場におけるルピア安による輸入物価の上昇も重なり、財価格は幅広く上昇している。サービス物価にも上昇圧力がくすぶるなど、全般的にインフレ圧力が強まる動きがみられる。

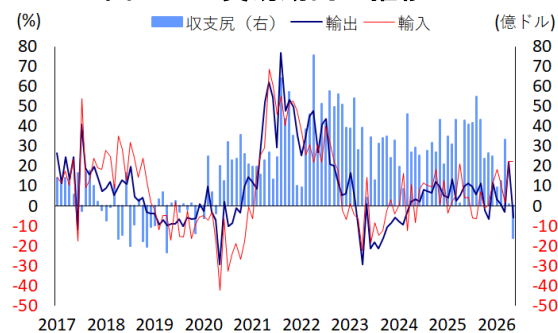
同日に発表された5月の輸出額は前年同月比▲5.73%となり、前月（同+21.98%）から2ヵ月ぶりに前年を下回る伸びに転じた。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も2ヵ月ぶりの減少に転じており、中期的な基調も減少傾向となるなど頭打ちの動きを強めている。財別では、原油や天然ガスの輸出が大きく下振れするとともに、その他の鉱物資源のほか、農産品関連、製造業関連など全般的に輸出に下押し圧力が加かった。一方、輸入額は前年同月比+22.16%となり、前月（同+22.49%）からわずかに伸びが鈍化した。前月比は2ヵ月ぶりの減少に転じたと試算されるものの、中期的な基調は拡大傾向で推移しており、輸出とは対照的に堅調な動きをみせている。財別では、天然ガス関連の輸入額が押し上げられるとともに、輸送用機械関連の輸入も堅調な動きをみせる一方、機械製品関連や金属関連、穀物など食料品関連の輸入は総じて下振れするなど、ばらつきがみられた。その結果、貿易収支は▲16.10億ドルと前月（+0.89億ドル）から悪化し、約6年ぶりの赤字に転じている。

図5 ID インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

図6 ID 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

以上